園芸　梅雨明け～高温時期の管理について

営農指導課 境

アールスメロン

①定植期～交配

定植から交配までの日数（30日を目標）とし、吊り上げの遅れがないようにしてください。交配前には雌花と葉の状態を確認し、葉色が薄い場合は早めの葉面散布等を実施し、蜂も早期に導入しハウスに慣らしてください。

②交配～ネット期

交配期にはハウス内が多湿にならないように注意し、交配後は、花かすの除去と灌水（圃場の状況確認後）を早めに実施され、硬化期の水分が多くならないように管理してください。また、摘果される際には傷口が乾くよう晴天日の午前中に行い、結果枝を長めに残してください。ネット期、特に午前中の温度と湿度管理には細心の注意を払ってください。

③ネット後期～収穫期

ネット後期には玉の緩みを確認し、午後は換気扇等を利用され除湿と高温対策を行ってください。晴天続きの場合は乾燥となりますので、ネット盛りの為に通路散水で湿度確保をしてください。

アスパラガス

近年は、高温･乾燥での生育環境となっており対策が必要です。温度管理を徹底し、草勢･品質の維持に努めてください。

①気温の上昇に伴いハウス内が高温にならないように遮光資材（30%）等を利用し高温対策を行ってください。

②気温が急激に上昇し蒸散も多くなります。少量多回数での灌水を行ってください。

③ハウスサイド部、妻面部の開放は必ず行い葉焼けに注意してください。葉焼け部より病気が発生した場合、夏場の収量に大きく影響します。

病害虫全般

高温･乾燥状態が続きますので、アザミウマ類やハダニ類、うどんこ病が多発することが予想されます。農薬散布を行う場合は、日中の熱い時間帯に行うと薬害が起こる可能性が高くなりますので、涼しい時間帯に散布しましょう。

※春作瓜類の後処理の徹底。株をすべて引き抜きハウスの密閉処理を行い害虫の徹底防除を行う。

花き　花卉の栽培管理について

営農指導課 猪原

花卉全般

梅雨明けを迎え、多雨による根傷みや急激な天候回復によりやや萎凋の見られる圃場もあるかと思われます。特に梅雨明け直後の高温時は遮光被覆等の対策を行ってください。また、草勢回復のための葉面散布や液肥の施用を行ってください。

今年はアザミウマ類やカメムシ類の発生が多く見られます。薬剤はローテーション散布を基本とし、登録内容に従って十分な散布量を確保することで防除効果が高まります。また、展着剤を活用することで相乗効果も期待できます。

8月お盆菊･9月彼岸菊

8月お盆菊については、仕上げの時期となりました。早めに摘蕾作業を行い、破蕾期までにアブラムシやアザミウマの防除を徹底してください。9月彼岸菊については、7日（月）、9日（水）に出荷のピークを迎えるよう管理してください。高温期はハウス妻部を開放するなど、十分な換気を行い、できるだけ室温をさげるよう努めましょう。ホルモン剤の処理は、消灯後2週間を目安に実施してください。

果樹　8月の果樹園管理

営農指導課 藤本

防除･施肥管理･栽培管理

品　目	管理内容	農薬･資材名	収穫前日数	倍数	対象病害虫
みかん	肥のあかりへのジマンダイセン水和剤散布は、8月上旬までとします。 ※コルト顆粒水和剤をチャノキイロアザミウマ対象に散布を行う場合は、3,000倍で散布を行いましょう。	ジマンダイセン水和剤	30日	600倍	黒点病
		コルト顆粒水和剤	前日	2,000倍	カイガラムシ類
		ダブルフェースフロアブル	前日	2,000倍	ミカンハダニ･サビダニ
		アドマイヤーフロアブル	14日前	4,000倍	カミキリムシ･アザミウマ類･カイガラムシ類
デコポン	土壌が乾燥状態の時に急激なかん水を行うと裂果に繋がります。8月上旬までは、3～5日おきに十分なかん水を行ってください。中旬以降は、2～3日おきに少量多回数かん水を行い土壌が乾燥状態にならないようにしましょう。 ※かん水を行う際は、日中に行ってください。	ジマンダイセン水和剤	30日	600倍	黒点病
		コルト顆粒水和剤	前日	2,000倍	カイガラムシ類
		ダニゲッターフロアブル	前日	2,000倍	ハダニ類
		アビオンE	—	1,000倍	展着剤
梨	豊水の収穫適期は満開後140日頃で、地色が3以上が目安となります。収穫が遅れるとみつ症が発生しやすくなりますので、注意して収穫･選別を行いましょう。	スタークル顆粒水溶剤	前日	2,000倍	シンクイムシ･カメムシ
		モスピラン顆粒水溶剤	前日	4,000倍	シンクイムシ･カメムシ
柿	太秋では葉果比25～30枚に1果1㎡あたり6～7果、西村早生では葉果比15～20枚に1果1㎡あたり8～9果を目安に摘果を行ってください。	フェニックスフロアブル	7日	4,000倍	カキノヘタムシガ
		ナリアWDG	前日	3,000倍	炭そ病･うどんこ病
栗	早生種は8月中～下旬にかけて収穫が始まります。鮮度保持のため、気温が低い早朝に収穫を行いましょう。	フェニックスフロアブル	前日	4,000倍	モモノガマダラメイガ
		ベンレート水和剤	14日	2,000倍	実タンソ病
桃	収穫が終了次第、縮･間伐を行いましょう。間伐樹が永久樹と重なってきた場合は縮･間伐を検討しましょう。	ノーモルト乳剤	前日	1,000倍	モモハモグリガ
		くみあいBB2055号		15kg(成木)	礼肥

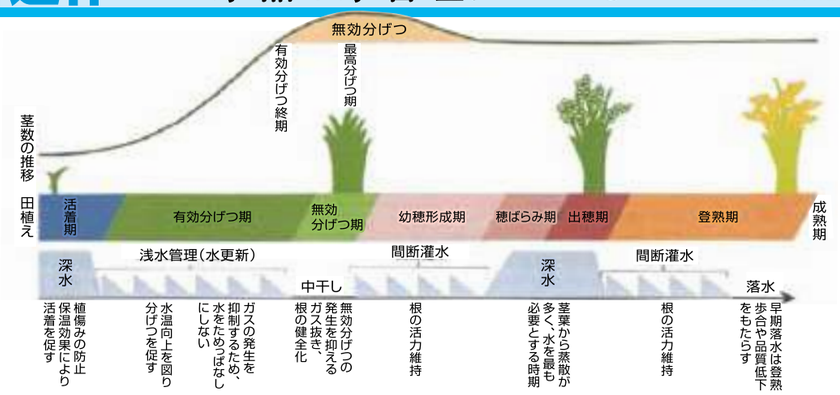
※農薬使用･混用について不明な点がございましたら、JA指導員もしくは営農センターにご相談ください。

牡牛座 4/20～5/20
【全体運】スムーズに物事が進まないとき。あえてペースダウンをしてゆっくり進めればミスを減らせます。下旬は上昇運
【健康運】喉に痛みを感じたら早めにケアを。喉あめが◎　【幸運の食べ物】葉ショウガ

農作業メモ

普通作　水稲の水管理について

農産課 酒井



中干し期

中干し開始の目安は、1株22～25本程度になった頃です。中干しを行い、根に酸素を供給し活力を高めましょう。

・中干し期間の目安は概ね5～7日間です。
・小さな亀裂が生じ、軽く足跡がつく程度が適度です。
・田面が乾きすぎた（田面が白くなる）場合は、走水を行いましょう。

注意点
・麦わらを鋤き込んだほ場では、ガスが多く発生するため、必ず中干しを行いましょう。
・排水不良のほ場では、やや強めの中干しを行いましょう。

★「くまさんの輝き」は茎数(穂数)の増えやすい穂数型の品種です。籾数過剰による品質低下を防ぐために中干しを徹底しましょう。

幼穂形成期～穂ばらみ期～出穂期

幼穂形成期（7月下旬～8月上旬）は間断かん水を行いましょう。中干しの時期が幼穂形成期･穂ばらみ期と重なると、幼穂形成への影響が心配されるので、重複は避けましょう。

又、穂ばらみ期は水を最も必要とする時期です。この時期の水不足は、穂が小さくなり、不稔籾の増加や減収の原因となります。極端な場合は、白穂になることもあります。特に出穂前10～14日（8月中旬～下旬）は十分なかん水を行いましょう。

中干し期の稲の様子

穂ばらみ期の稲の様子

水田からの濁水流出低減にご協力をお願いします!!

近年、農業濁水が河川に入り込み河川環境への影響、特に魚類への影響が大きく深刻な事態となっています。WCS等の植付け時期に入り、河川への濁水流出低減にご協力をお願いします。

特に以下の事項についてご注意をお願いします。
1. 代かき作業時、水田流入水量を少なくし排水口には土盛りなど落水を極力減らすなどの対策
2. 浅水（土面が70%～80%程度見える）状態での代かき
3. あぜ塗り（補修）などの漏水防止

◆お問い合わせはJA鹿本農産課　電話：0968－41－5145まで

畜産　養鶏場でのネズミ対策

畜産課 新崎

ネズミ対策のポイントは、種類及びその数･行動パターンなどの実態調査とそれを基にしたネズミの住みにくい環境づくりの駆除プログラム策定です。

1.環境改善

鶏舎内外のネズミの隠れ家をなくし、ネズミが住みにくい環境に改善しましょう。

① 鶏舎周辺
・定期的な清掃及び除草
・鶏舎周囲の舗装
・鶏舎周囲の資材の撤去

② 鶏舎内
・清掃の徹底
・放置している資材を撤去

2.モニタリング

ネズミ駆除業者等と協力し、農場に生息するネズミの種類、その数、鶏舎内侵入口、移動ルート、営巣場所を調査しましょう。

・ラットラインの確認
・柱や筋交上のネズミの足跡の確認
・ネズミの糞の確認
・暗視カメラの設置
・蛍光パウダーを撒布した後、ブラックライトで足跡を追跡。

3.ネズミ駆除

・**接触粉剤の使用**　ネズミの移動ルート上に撒布し、ネズミの手足や体毛に付着させます。ネズミは毛繕いをする際にそれを舐めて摂取します。
・**毒餌の配置**……　定期的に実施。
・**捕　獲**……　粘着トラップ等をネズミの移動ルートに設置。
・**侵入防止**……　ネズミの出入口となる穴･隙間を補修。
集糞ピットを鉄板で完全に塞ぐ。
鶏舎のバーコンベア引き込み口にシャッターを設置。

ネズミの捕獲数及びへい死数、また足跡や糞の有無、その量等は随時記録し、検証を行って対策を見直していくことが重要です。「対策⇒検証⇒対策見直し」を繰り返し、根気強く行いましょう。

（くみあい養鶏生産性向上ヒント集参照）

牡羊座 3/21～4/19
【全体運】夏ならではのレジャーを楽しむと運気がアップ。人の和を大切に。出会いが日々を豊かにします。旅行が吉
【健康運】体調の変化に敏感に対処して。外出時には帽子を　【幸運の食べ物】エダマメ